（第二附）（京城郵便局）（明治卅一年五月九日第二種郵便物認可）昭和十三年六月二十三日（木曜日）　臺灣日日新報　第一ノ二千七百四十二號

臺灣日日新報

夕刊
六月二十二日
發行人兼編輯人　佐々木
臺北市表町一丁目一番地
臺灣日日新報社

皇軍の急進撃に 漢口で必死の防備

湖口附近に水雷敷設

【上海二十一日發同盟】漢口目差してひた押しに進撃を續ける我が海陸將士の勇ましい戰況ぶりに狼狽した支那側は目下防衛に必死となつてゐるが、現に上流九江附近の馬當要塞に配置されてあるブーム（鐵鎖）を撤去して漢口に至る揚子江の水路を開放し、また下流の蕪湖入口にある湖口附近に多數の水雷を敷設して固り先遣艦にはこの水雷敷設に從事しつつあつた艦二隻が水雷を滿載したまま沈んで仕舞ひ、何等なすところなく水雷敷設となつたと言はれる、尙支那軍は日本軍の南岸揚陸を支へ得ると見ここ數日來岸に九江南昌間南潯鐵道のレールを外し始めてゐるに至つたが、これは漢口陷落、軍隊輸送機關破壞の集中すべき南昌が日本軍の手に落ちれば漢口は既に死命を制せられることになるので一日でも日本軍の進擊を阻止めんとの苦肉と見られる

許州を第一線に 尨大な外廓陣地

【上海二十一日發同盟】國民政府の遷都予表定べき漢口攻略戰の切迫とともに支那側の漢口防衛計畫は愈々尨大なものとなつて來た、即ち目下の漢口攻略戰對策を第一線とする第二、第三線の外廓陣地の設定を急ぐとともに漢口を中心とする揚子江沿岸の交通機關を利用して配備を急ぎつつあるが、陳誠は目下の漢口の運命は既に決したものと見做し

第一線　京漢線許州から新州を經て河南省信陽に至る線で既に一部は構築を終つてゐる

第二線　京漢線許昌から河南省南方に亙り陳誠將軍の部隊を配備

第三線　河南、湖北省境京漢線許州から漢口東側にかけ布陣多數の新設部隊を配備する關係上、北は鄭州、開封方面から進擊した日本軍部隊、特に部隊を河南、陝西省境潼關に配備し南は津浦線方面より敵進入目下固守中の李宗仁軍及びこれに司令部を置く第五戰區に司令部を設け、第二線、第三線を守備し、最後決戰は日本軍の揚子江進擊を喰止める任務を帶びてゐると言はれる

六十箇師を集結 漢口防備の總兵力

【上海二十一日發同盟】漢口來攻に依れば漢口防衛の總兵力は六十箇師に上り等々これが集結に力めてゐると傳へられる、而して國民政府の動搖、支那側に同情ある諸國が如何なる態度に出るかは未だ不明であるが漢口當局では既に三十箇師團を編成し、また四月より九月までの半年間に新設師團車二百乃至三百輛と共に新設兵團にはソ聯より輸入した三百六十門をはじめ總計七百門に達する野砲を裝備する筈であると言はれる

強力統制を實施

全消費部門に亘つて

物資動員計畫の 趣旨、内容を公開

國民に徹底させる爲

【東京二十二日發同盟】政府は國家總動員法第二十條に基く物資動員計畫に關しては從來その内容について最高の機密に屬するものとして嚴重に秘匿し來つたが、今回の支那事變の經驗に鑑み、國民をして擧國一致の體制を强化せしめ國家總力の發揮を期せしむるため今回の物資動員計畫の實施に當つては、その内容を國民に公表することとなつた、即ち物資動員計畫は昭和十三年度を第一年度とし、昭和十七年度を第五年度とする五箇年計畫で、第一年度たる昭和十三年度の計畫は既に決定實施されてゐるが、第二年度たる昭和十四年度の計畫は目下企畫院において鋭意作成中であり、第三年度以降の計畫は大體の見當はついてゐるが未だ具體的には決定されてゐない、而して第一年度たる昭和十三年度の計畫は既に決定實施されてゐるが、この計畫は豫算編成の關係上、昭和十三年七月一日から實施されることとなつてゐるので、實際には昭和十三年七月一日から昭和十四年六月末日までの一箇年間の計畫である、而して第二年度以降の計畫は毎年豫算編成の關係上、會計年度に從つて實施されることとなつてゐるが、第二年度以降の計畫は現在の國際情勢の推移に鑑み、特に重要物資の輸入確保に關し、從來の計畫を變更し、更に强力なる計畫を樹立實施することとなつてゐる、尙

佐藤部隊と協力し 戰果を擧げた淺富部隊

四十餘時間を不眠不休で活躍

（GOにて十三日發松田本社特派員）佐藤部隊第山陣地攻撃をあの様に成功裡に導いたのは淺富部隊の上陸四十餘時間の不眠不休の活動である、敗敵は小賢しくも退却に際しては無数のクリークの小橋を破壊し去つたこれに對し淺富部隊は敵の不測の困難に屈撓勇往邁進かれる頃は鮮やかな晴地僕人が行はれ悪ちつかぬ制壓である

同の見事な一致を見せた淺富部隊富部隊長は疲を呑んで兵の睡眠時間を確保し、築城作業に行び或は大膽な深間隙のクリークを繋梁のまま渡渉する等常人の考えさなるが、一般人に對しては慎深く、寛容の如きは一切やらない、怒るに支那軍人は戰ひには強いが一般民衆に對しては暴虐で侵略、掠取暴圧らざるなしである」と誡いたところ、初めてよく判つたやうな顔をして……るといふ、南支及びここから出てゐる南洋諸島等に、此の「門の實際の狀態を知つて、初めて日本軍人の本當の姿といふものを認識し始めてゐるといふ

豆警察隊

ヶ所に若つつ配置本物の交通巡査の指導を受けたがそのスマートな動作は巡査そっくりで通行者を感歎させた

（寫眞は機關銃長の敬礼を受ける豆警察隊）

學術日本の偉力發揮

斯界の元老と權威者を網羅

科學振興調査會を結成

【東京二十一日發本社特電】學術日本の偉力を發揮する為め當て全學會の綜合統一を計畫してゐた文部省では本年度木戸文相を迎へその第一歩として自然科學者の大同團結機關である科學振興調査會を結成する事になつた

先頃　出來た科學審議會と共に車の兩輪として學術振興を目指して現在の各種研究機關の連絡統一、重要研究事項の助成促進各大學の中館常務、帝國學士院會員長岡半太郎、大河内正敏、長興又郎、佐野利器、平賀讓、和田小六、勝田銀吉の諸氏を初め我が國學會の元老、權威を網羅する四十餘名内外の大陣容である、此の科學振興調査會は

世紀　を顧する我が學會の一大飛躍が待望されてゐる

皇軍の威武を見て "軍人"の認識是正

南支住民ら誤謬を解く

【廣東二十一日發本社特電】日支の戰場と無辜和の現狀を、此の地に……帝國臣民の奇蹟的なる理想と現實の下に復興されつつある實にだけに、そこには早くも明朝一色の樂觀氣分があるが、分けても支那人の私有財産に對する保護の如きは、實に皇軍にはなれてゐる、現在○○○に充てられてゐる家屋の如きは、擧げて日軍の巨額の賠償なのであるが、私有財産には一つだつて手をつけてはならぬと、各軍の嚴重取、嚴令等とするものなどいふから床の間物までが完全に封印してあり嚴重に保護されてゐる、一體かういふ事は從來も"軍人"といふ者により得べからざる事と考へてゐるのが、支那人の"軍人"に對する認識の根本的誤謬で、軍人と言へば掠奪、暴取、暴行を常とするものなどいふ

俄然復歸者が殺到

廈門への渡航百八十餘

廈門の張鳴氏近く來臺

【廈門本社特派員發】去る二十日花々しく成立式を擧げた廈門治安維持會の誕生に當り、蓬萊氏をはじめた一人に復興社社長の張鳴氏といふ元氣な青年がゐる、同氏の夫人は大和撫子で今や東京にゐるが、嫁花夫人であるから、氏は"若き志士"として東洋平和のために東奔西走、よく新支那建設の衝に當つてゐるが、今度廈門の治安維持會設立について各方面から寄せられた好意に對し感謝の意を表するために七日中に廈門に歸任する事になつてゐる

新航空路に 新鋭機二臺

日本空輸會社の輸送陣容

【東京二十二日發本社特電】日本航空輸送會社では最近航空機利用の旅客並に貨物の激増に鑑み現在の使用機數では不足を感じつつあり更に近く申北支に對する新航空路開設と共に二臺その傾向を深くするので愈々今月末ロックヒード二百

の空機が行はれ八月初めより就航する事に決定又ダグラス機二百も九月末頃着の豫定で使用機數の増加と共に同社の新航空路の開設航空回數の増加が實現する事である

東京と智利間の 國際電話開通

きのふ永井遞相が交驩通話

【東京二十二日發本社特電】東京と南米チリーとの國際電話が二十一日から連絡され此の業務開始に先立ち午後九時二十分から日智交驩通話が行はれ永野逓相は九時三十分から五分間官邸からチリー駐箚ヤラス・ロス氏とエッセーデの大使をなし親しく懇談を交換をなし親しく懇談を交換をなし親しく懇談を交換

見よ！この實例！

戰爭と乳兒の問題

世界大戰中獨逸は如何にして乳兒死亡率增加を克服したか

戰時に於ける乳兒の死亡率が增加するということは、世界大戰當時にも問題を國内に捲き、これが對策についてはあらゆる努力を拂つたのである。その中でもの大戰によつて最も困苦の底に立たされたドイツの、この點に關する苦心經營は眞ならぬものがあつた。

學ぶべき第二國民の養成法

さて、この苦い經驗を、如何にしてドイツは切り抜けて來たか。又戰時並びに戰後の保護に關し如何なる施設が行はれて來たか——大戰勃發當時には、戰爭初期の混亂と興奮と、戰に、軍醫の不足のため、産婆、兒童の看護は大打擊を受け、初めの數ヶ月間は乳兒死亡の增加を來したのである。

しかし、この混亂と興奮とが落着に歸るや、常となつて世界兒童保護事業を始みじめて行つたのである。先づ一九一四年八月十九日には、西部くも、プロシヤ内務大臣は、地方當局者に對し兒童保護事業を急速にしてならぬ。戰時中より戰後も、乳兒ホーム或は託兒所や、その他の兒童保護事業を十分に奬勵して行け、命令を發した。

また、同時にドイツ當局は、全ドイツ乳兒保護同盟に對し各地の活動の會々必要な事を指導されたのである。かくの有力な指導と、戰後約二ヶ月間に於ける乳兒死亡の上昇と、全ドイツに於ける乳兒保護團體の

（總督府許可濟）

母子ドレス（三）

コロンビヤ活動寫眞株式會社、世界的六大會社、世界的六大會社、世界的六大

江戸桃花陣 (62)

海音寺潮五郎作

富永謙太郎畫

吉凶ごと

「まさかと思ってたが、矢張りそうか。あたしは、聞くところによれば、霜田の血統である故、直参御取立を喜んで上府なされたのだろうが、恐らく、わしが御老中首座の松平定信様の御機嫌を取りたくて、とりなしを頼もうと思ってござったのでござろう。

だとすると、わしはあんたを門人帳につらねることをおことわりせねばならぬ。わしはさやうな俗事にかかづらうことがきらひだし、第一、学問をいふものをさやうなことに利用せんとするあんたの心事が嫌ひ入り処」

といふのである。

心事を見破かれたと考へたのは即ち過ちだったのだ。甲乙介はほつとして、微笑を作って言った。

「いや、その懸ひは御無理ですが、裏を申すと、聴者の心には、直参取立を望む心はもうなくなってるのです」

甲乙介は、公儀直参と称する武士階の人間に失望しつくしてゐること、従って今では武士生活の憧憬をも断ってゐることを説明した。

「なるほど、なるほど」

と聴者は頷いてゐたが、我慾をはたらかせるように叫び出した。

「よろしい、よろしい、大いによろしい。そこで何か出来ます。真実が花であった時代はもう過去の夢であります。現実はどこまでも利害打算といふのが人間社会の鉄則であります。公儀よりの御金方だけの御用はどのものにも出来ますが、わしら町人仲間のものがわしら町人仲間にも出来ます。幕臣だ公儀だなどやかましいことを言ってゐては、御台としての御用はもう絶対に出来ません。わしらの仲間にも出来ません。

それが最も合理的に為されて始めて実利を収得るのであるから、初めての人は慎重、慎重をもつ者も一考を煩はしたいと思ふ。

先づ、家屋で小規模に養鶏をするのには一利ある。一つは糞鶏によっていくらでも利益を挙げて家計の助にしようとするもの、今一つは利益は第二として先づ新らしい趣味を自分で楽らうといふものである。即ち土は少くとも五十羽位の鶏舎を置ける位の広さの土地と資本を必要とする。後者なら僅か五六円の雛を買へばよい。

養鶏に当って、第一に大切なことは、その土地が養鶏に適するか否かといふことである。これが成功か失敗の最大原因になるのである。

土地は、どんな場所が適するかといふと、こゝ御殿にいふ「地味」が元気に育つ所ならば、養鶏は成功するのである。

さて五十羽の雛を飼ふには、鶏舎として少くも五坪位が必要であって、これ以下だと不衛生になり、逆に狭過ぎても経済的でないし、反対に広い場所では運動に時間を費やし、餌をやるにも不便である。

限られた必要坪数以外へは無駄ゆかないので、雛を商売として自分の副業に近いところに設置してゐて差支ないほどの規模でよいのだ。

鶏舎の構造は、雨露を凌ぎ、風通しがよく、外敵の侵入を防ぐために設けるものである。

鶏舎は普通一坪に十羽位の割合で飼ふことになってゐるが、これは、鶏が外へ出たい為ばかりでなく、外から鶏へ入りたい野犬などの侵入するのを防ぐために設けるものである。

鶏舎は、初めの二年位は五坪位の小さいものを二棟位に止めておく。これは、鶏が外へ出たいため

（第二版）（京濱配達）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）

臺灣日日新報

本日夕刊共十二頁

臺北市榮町四丁目廿番地　社長　佐々木八郎　編輯兼發行人

社說

支那を救ふ道は和平のみ
虐を衝いた新政權の大聲明

中華民國臨時政府は今回國民黨政府及び其の將領に向つて徹底的に抗爭を求むべく重大聲明を發した。即ち國民黨の長期抗戰と焦土政策とは徒らに民國の滅亡を招くに過ぎず、同族相鬩の慘を避けて須らく東隣友邦の誼に頼つて共に國の復興に努力すべきことを說々と說いたものである。一方佰かうと相呼應する如くに維新政府も亦た行政院長汪兆銘氏以下各閣長並に江蘇浙江兩省長、上海南京兩市長等の選を以て新分布の組織を斜酌し、國事安定の爲め將た何をなすべきかの適宜なる方策を全土の愚所々々に發するところあつた。

二

兩政府のこの重大なる發明は、實に淡路に依て數十万數百万の支那國民を氷炭に陷らんとせる所謂抗日の根據無道なる指導者の悔悟を促す

「重心」を産業に……
地方行政機構の改革
各州に産業部を設置案
來年度豫算に要求

本島の產業は益〻著しく發展を遂げ行政機構もこれに即應して改革の必要に迫られて居り、昨年は十三年度豫算に各州に經濟部設置費を要求して認められなかつたが、臨時機構の改革實現には強行政機構の擴充を必要とするので二箇年計畫で漸次實現する事になつたが、愈〻第十四年度には之が實現を期することとなり、目下內務局當局に於ては一

（日本精糖業組合會員會社支部發表）昭和十二、十三年期蓋糖會社別製糖高調べによると、原料糖は四百十三萬二千四百八十六担、白消糖は八百十一萬四千四百五十三担、白雙糖は四百十三萬二千四百八十六担、合計二千六百十七萬四千四百六担之を細別すると

原料糖輸出
同移出一種　一、〇五二、三五担
小計　一、〇五二、三五
白消糖一種　一、三〇九、一四
同二種　六、〇五二、一四
小計　八、三六一、二八
白雙糖双目　三、三六一、二八
同車糖　三、〇五二、〇五
小計　六、四一三、三三
總計　一六、〇五二、〇五

右の內白消糖一種は双百六十三萬七百六十八担、車糖百八十七萬八千五百十二担、白雙糖一種は双百六十三萬七百六十八担、車糖千五百十二担、二種期は中双五百九十六萬八千六百八十九担、車糖

（二）三萬八千四百八十五担である、一種車糖は以前二千五万俵至三千万俵に上つたことあるも消費稅改正、二十二號未滿の中双が供給されるに至つたからに伴はれて需要激減、前期は七万五千担、今期は二万八千俵担と將に前期に減せんとしてゐる、尙前期消費業者を前期と爲照すれば（別位担）

前期　今期
原料糖　一、〇五二、三五　一、〇五二、三五
白消糖　一、〇九、一四　一、三〇九、一四
同一種　六、〇五二、一四　六、〇五二、一四
同二種　八、三六一、二八　六、〇五二、一四
中双　一、〇五二、一四　三、三六一、二八
同車糖　三、〇五二　三、〇五二、〇五
白雙　三、四一三、三三　六、四一三、三三
双目　同車糖　六、四一三、三三　三、三六一、二八
同車糖　六、四一三、三三　三、〇五二、〇五

前期より今期に比し原料糖と二種白消糖と白雙糖は增加し、一種双目と同車糖は減滅してゐる、今期の產糖高は前期に比し二千五万二千俵担

種類別產糖實績
前期に比し第二種糖は減少
原料糖、一種糖、白糖は增

を減じてゐるに拘らず原料糖を增加したのは、白雙糖等の製造が增加したのは特殊事情に依るもので、原料糖自體、二種糖は減少したわけではない、尙台灣製糖の原料糖八万二千七百担は滿洲製糖への二種原料糖である、更に各州別產高は次の通りである

（單位千擔）

	原料糖	白消糖	白雙糖
臺北州	一、〇五二	一、一三四	一、三四
新竹州	一、〇五二	一、三四	一、三四
臺中州	一、〇五二	一、三四	一、三四
臺南州	一、〇五二	一、三四	一、三四
高雄州	一、〇五二	一、三四	一、三四
花蓮港廳	一、〇五二	一、三四	一、三四
台東廳	一、〇五二	一、三四	一、三四
澎湖廳	一、〇五二	一、三四	一、三四
合計	一、〇五二	一、三四	一、三四

官民行造林
間伐製腦產額
向ふ十一ケ年の計畫

專賣局では昭和十二年から昭和二十三年迄向ふ十一ケ年間の官民行造林間伐製腦による生產額を左の如く見積つてゐる（單位瓩）

△官行造林		
十二年	一四九、一四〇	一四九、一四〇
十三年	一五八、六五五	一五八、六五五
十四年	一五三、四一六	一五三、四一六
十五年	一八七、二三六	一八七、二三六
十六年	二一三、五三六	二一三、五三六
十七年	二一五、七四三	二一五、七四三
十八年	二一六、二〇三	二一六、二〇三
十九年	二一七、一八七	二一七、一八七
二〇年	二一八、一七六	二一八、一七六
二一年	二一九、一八四	二一九、一八四
二二年	二二〇、一九二	二二〇、一九二
二三年	二二一、二〇一	二二一、二〇一
△民行造林		
十二年	一五〇、四四八	一五〇、四四八
十四年	一九五、七四六	一九五、七四六
十五年	二一四、二〇四	二一四、二〇四
十六年	二一九、二〇四	二一九、二〇四
十七年	二二三、二〇四	二二三、二〇四
十八年	二二六、二〇四	二二六、二〇四
十九年	二二九、二〇四	二二九、二〇四
二〇年	二三二、二〇四	二三二、二〇四
二一年	二三五、二〇四	二三五、二〇四
二二年	二三八、二〇四	二三八、二〇四
二三年	二四一、二〇四	二四一、二〇四
△合計		
十二年	一九九、一五四	一九九、一五四
十四年	二五四、四〇二	二五四、四〇二
十五年	三〇八、一七一	三〇八、一七一
十六年	三七九、三一〇	三七九、三一〇
十七年	四五一、七六五	四五一、七六五
十八年	五二三、五八四	五二三、五八四
十九年	五九五、八〇一	五九五、八〇一
二〇年	六六七、一六二	六六七、一六二
二一年	七三九、一八六	七三九、一八六
二二年	八一一、二一〇	八一一、二一〇
二三年	八八二、二三四	八八二、二三四

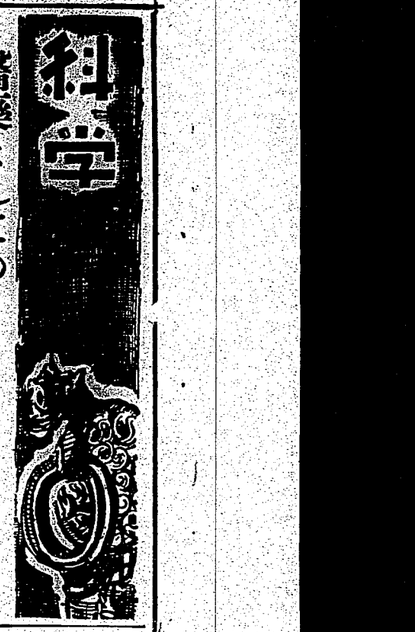
臺灣工業協會
社團法人に改組決定

會で決議七年その手續きをすることになつた、工業協會の使命に關し將來興通の問題に對し研究協調するばかりでなく進んで本島の產業を助長するの目的を以て工業化を促進し或は自ら工業を營むものあるに對し本島の開發進展に資與せんとするにあるので會員中の有志を以て組織する協會を設立し本島の工業を起すべく各〻適當なる事業を選んで之が經營に當り、且つ

科學

醫藥としての草根木皮のいろいろ

（中）支那では五千年前から使用



甘草は南ヨーロッパ、西部及び中央アジア等に野生する多年生植物であり、また根部を乾燥する醫藥に用ひられるし、又嘔吐するやうな不味い醫藥の味をよくするために用ひられる。しかし甘草の多くはタバコや煙草製造及び菓子製造等に香料として用ひられる。最近ではその他種々なる工業上の用途が發見されるに至つた。

△

大黄の薬効は料理に用ひられ、その根は藥として用ひられる。大黄は支那及び西藏に産する。根を掘り出して小さく刻む。こまかくきざんだものを絲に通して天日か陰で乾かす。大黄は消化不良に用ひられる。また瀉性藥及び緩下藥としても用ひられる。

△

カスカラはアメリカ合衆國の北西部及びその附近のカナダに産する熊、鹿といふ木の皮からとれるカスカラは西インド人及び島の初のスペイン移民たちによつて用ひられた。このスペインの移民たちはカスカラをカスカラ・アサラーダ（聖なる樹皮）と呼んでゐた。夏のうちにクロウメモドキの皮を長い電柱に剥いで、乾けばしにするカスカラは瀉性藥及び緩下藥として用ひられる。

△

キニーネは最も有名な藥の一つであり、人間にとつて非常に大なる恩恵であつた。それはマラリアを治療する唯一の藥品だからである。キナ屬に屬する數種の樹皮からとれる。キナ屬は南アメリカのアンデス原産である。キナ樹は固い紅色の樹皮をもつた常綠の木である。アンデス地方のインデアンたちは早くからこの樹皮の效能を知つてはゐたが、この樹皮に關する最初の記錄は一六三八年、ペルーの總督夫人シンコン伯爵夫人がマラリアに罹つてあらゆる方法を用ひて效果のなかつたとき、最後にこの樹皮を用ひて治癒したと傳へられてゐる。

△

ペルー産のコカの葉からコカインを作るに用ひられる。コカの葉は主として南米ペルーの山地から持ち出して來て、それがジヤヴアやインドの一部に栽培される樣になつた。キニーネの大部分は現今ではジヤヴアから産する。インドから産するキニーネは大部分インド内地で消費される。しかし南米ペルーの一部では原住民たちはコカの葉を噛むことはペルー及びその附近のインデアンの習慣である。それを用ひることはインカ帝國の習慣として傳へられてゐる。コカを用ひることは、醫藥學からだんだん衰退にまで及び、一五五二年には一般に用ひられてゐたとヒザロは云つてゐる。

△

コカの葉を噛むことはペルー及びその附近のインデアンの習慣である。それを用ひることはインカ帝國の習慣として傳へられてゐる。コカを用ひることは、醫藥學からだんだん衰退にまで及び、一五五二年には一般に用ひられてゐたとヒザロは云つてゐる。

△

ペルー及びボリヴィア原産のコカの葉はコカインを作るに用ひられる。葉は注意して乾燥される。百ポンドの葉から一ポンドのコカインがとれる。コカインは局部麻醉及び脳髓麻醉の強化に役立つけれどもそれ等麻醉性になりやすい傾向があるから醫者の監督の下に用ひねばならない。

△

パラドンナはアメリカ、ヨーロツパ、インド等に栽培される藥は開花時に採取され乾燥される。これは數個のアルカロイドを含有するが、中でも主なるものは、ヒヨステアミン及びアトロピンであるパラドンナは外用として「脈」止め」に用ひられ内用として發汗、鎭痙を止めるに役立つ。

△

ベラドンナ、ヒヨスチアムス、マンドラゴラ、ストラモニウム等は何れも有毒植物であつて、その葉、根、種子等は何れも有毒植物であつて、その葉、根、種子等は何れも有毒植物であつて、その葉、根、種子